

北房小学校開校 北房こども園開園 連携型一貫教育の幕開け



新しい校歌を歌う児童たち



新しい園舎は木の香り



こども園にある広いホール



広々としたメディアセンターで楽しく読書

4月9日に北房小学校開校式が、12日に北房こども園開園式が行われました。同校、同園は、北房地域内の4つの小学校、3つの幼稚園と2つの保育園を再編し誕生。校舎と園舎には新建材CLTをはじめとする木材をふんだんに使用し、旧至道高校跡地に建築されました。真庭市と教育委員会は、近隣にある北房中学校を含め、こども園から小中学校までの連携型一貫教育を進めていきます。子どもたちは、完成したばかりの学び舎に目を輝かせていました。



給食も楽しみ



ちょっと探検



真庭で作った電気、大切に使います！

**バイオマス電力供給開始調印式
電力供給全国最大規模へ**

3月26日、天の川こども園で太田市長と真庭バイオエネルギー株式会社の中島浩一郎取締役が公共施設への電力供給に係る契約書に調印し契約を交わしました。これにより4月からバイオマス発電所からの電力供給は小中学校、上下水道の施設など、真庭市内の公共施設45か所となり電力の供給量は全国最大規模に。式典後には、電気が作られ生活の中で使われるようになる過程が、こども園の園児たちに紹介されました。



市政に関する動きの一部を紹介します

3/26 地域づくりの意見交換

落合垂水にある空き家を活用した「ゆーまにわキャンパス」で「市長と話そう!」が開催されました。今回は地域おこし協力隊のメンバーがこれまでの活動とこれからの地域づくりについて市長と直接意見を交換しました。



4/1 「観光地域づくり」担う新組織を設立

真庭地域の観光振興を図るため、観光関係団体が行ってきた情報発信などの事業を一元的に担う官民組織(一社)真庭観光局の開所式が行われました。笑顔あふれる真庭を目指し「観光地域づくり」を推進していきます。



市長 室 から
こんにちは!

こども数の減少に歯止めを!

この4月、北房において新たに開設したこども園と小学校は、真庭産の木材を使用した施設で、併せると県内最大級の木造建築物であります。こども園として、CLT(直交集成板)の使用では全国トップレベルの施設と言えます。小学校については、建物は勿論机や椅子に至るまで地元の木材を使用し地元で製造したもので、ここまで地元産材に徹することは全国で他に類を見ないのではないのでしょうか。

教育内容にも特徴があります。当地は中学校にも近く、公立として就学前から中学校卒業まで一貫して子供の個性を尊重した教育を推進してまいります。

ところが、北房の園児や児童数は次第に減り、6年後の36年度入学児童数は24人となる見込みであり、真庭市全体で300名を割ることが想定されます。

人口減少社会ではあっても、このような児童数の大幅な減少を何とか抑制したいものです。そのためには、出生数減少に歯止めを掛け増に転じさせること、移住による人口流入を図ること以外に方策はないと思います。

人口減少対策に特効薬はありませんが、各地域で児童数減少を具体的に把握し、地域の問題として危機感を持ち、真剣に議論することから始め、できることを個人、家庭、地域で実行することです。真庭市としても、本年度の施政方針で述べたように、あらゆる施策を人口減少対策に繋げていきます。

市民の皆さん!こども園、小学校で未来を担う子供たちの声をもっと大きく聞こえるよう、一緒になって頑張っていこうではありませんか。未来の真庭のために。



手を取り合い、笑顔あふれる真庭へ

4月12日、環境保全や森林を通じた交流、また地域で活動する団体との連携による地域活性化のため、真庭市と株式会社冒険の森が「笑顔あふれる真庭・冒険の森事業基本協定」を締結しました。全国で4施設目となる「冒険の森inひるぜん」は、訪れる人や働く人、自然、そして地域を笑顔にするため、津黒いきものふれあいの里に隣接した市有林約6畧を活用し、約50種類のアクティビティなどの整備が進められます。

自然共生型アウトドアパーク
7月21日オープン予定



旧遷喬尋常小学校講堂で構想を検討

4月17日、建築111年を迎えた国指定重要文化財「旧遷喬尋常小学校校舎」の整備のあり方や地域資源としての活用方策を検討する「整備・活用検討委員会」を同校舎で開催し、委員に市内外の有識者12名を委嘱しました。会長に江面嗣人氏、副会長に奥山仁氏を選出、その後のフリートークでは各委員が同校舎への思いや自身の考え方を語りました。委員会は今後5回程度公開で開催し、来年9月をめどに市へ提言します。

保存と活用を考える
第1回検討委員会を開催